

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

(別添様式2)

公表日: R5年 12月 26日

事業所名: 芦屋市立すくすく学級 サービス種類: 児童発達支援

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	・室内も戸外も安心して遊べるスペースを十分に確保している。 ・園庭で遊びやすい環境を工夫している。	・全員が十分に確保されていると回答	・現状維持
	2 職員の適切な配置	・人員基準を満たしている。 ・常に複数の保育士が配置されており、専門的な話が聞ける時間も確保している。	・1人がどちらともいえないと回答 ・残り14人は適切だと回答	・人員基準を満たしているため現状維持
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	・個々に応じて、分かりやすく興味や関心を引き出す環境を整えている。 ・訓練士の指導の下、個々に応じた支援を行っている。	・全員が適切な設備整備だと回答	・座位保持椅子や机の高さの調節など、個々に応じた支援を継続していく。 ・視覚支援等に配慮した情報伝達を継続して行う。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	・アルコール消毒や手洗いを徹底している。 ・毎朝環境整備を行い、降級後は使用した玩具を洗ったり消毒したりして、清潔を心掛けている。	・全員が清潔、活動に合った空間だと回答	・換気、消毒を継続する。 ・活動内容に応じた生活空間について、安全面も含めた確認を引き続き行っていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	・毎日保育終了後に、振り返りや報告を職員全員で行い、改善するようにしている。		・計画を周知し、実行後に振り返りを行い、次に繋げていくことを継続していく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	・年度末にはアンケートを行い、保護者の意見を聞き改善点を話し合い、実行している。		・保護者アンケートを継続する。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・関係機関からの研修会に参加している。		・自己研鑽のため、研修会に積極的に参加していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	・支援計画の会議を子どもごとに行い、現在の子どもの姿や、保護者の願いに基づいた目標や支援などを職員間で意見を出し合いながら計画を作成している。	・「はい」9人 ・「どちらともいえない」2人	・支援計画会議の中で、色々な視点から職員間で分析し、支援方法を話し合うようにしていく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	・自由遊びの時間と集団で遊ぶ設定保育の時間帯をプログラムしている。個別での訓練も実施している。		・子どもに応じた玩具や活動内容を工夫し、充実させていく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	・一人一人の子どもに合わせた目標に応じて、具体的な支援を明確に記載するようにし、保護者にも共有している。	・「はい」8人 ・「どちらともいえない」2人 ・「わからない」1人	・今まで通り、子どもの姿と保護者の願いを受け止めた目標設定を行い、保護者にも分かりやすい支援内容を記載する。 ・訓練については内容や指導のねらい等の説明を丁寧に行っていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の目標や、精神科医や訓練士、心理士の助言指導を基に、支援内容を確認しながら進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はい」9人 ・「どちらともいえない」1人 ・「わからない」1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き支援体制を継続するとともに、訓練の目的やねらい、親教室で伝えたいこと等を丁寧に知らせていく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	<ul style="list-style-type: none"> ・週替わりでリーダーを交替し保育を実施しているが、保育が繋がるような週案を立てて、チーム全体で内容を検討し、共有している。 ・その日の保育のねらいや遊びの進め方など話し合いを行って進めている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを中心に、チーム全体で検討し、細切れにならない保育、内容に偏りが無い保育、療育を踏まえたどの子どもにも分かりやすい保育の立案を継続していく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	<ul style="list-style-type: none"> ・直接会える時は丁寧な対話を心がけ、体調不良による欠席時が続いたり長期欠席中で会えない時には、子どもと保護者の状況の把握のために、個々に電話をして様子を確認している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今まで通り、適宜声かけや電話での対話を続けていく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や行事に応じた歌や制作、手遊びや運動遊びなどを取り入れながら保育を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が「はい」と回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい遊びで刺激を受けるもの、繰り返し取り組むことで身についていくもの等、一人一人の子どもの発達や興味関心に応じて、遊びの取り入れ方を工夫していく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝子どもの登級時間前に、その日のリーダーが中心となって、保育内容やねらい、支援内容を職員全員に伝え、共有している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今まで通り、細やかに打合せや役割分担について確認を行っていく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、保育終わりに必ず振り返りを行い、職員間で気付きや改善が必要なことなどを伝え合うようにし、次の遊びに繋がるようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・できる限りその日のうちに、子どもの成長に繋がったことや反省点を振り返り、改善していく。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、個人日誌や保育内容を記録している。個人の様子や保護者から聞いたことなどを、職員間で共有するようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の個人記録、クラス別記録、その他必要に応じて児童票の記録を継続していく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に計画相談員とモニタリングを行っている。 ・子どもの成長、発達に応じて目標を見直している。子どもの成長に合わせた目標や計画で保育に取り組んでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・計画相談員とは継続して来級時や電話でのモニタリングを行っていく。 ・入級時、進級時、中間評価、最終評価で聞き取りや説明を行い、子どもの姿に合わせた目標設定を行っていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な時は、職員が療育支援会議に出席している。 ・できる限り、関係機関との会議に参加している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・保育に支障がない限り、出席していく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者を通じて、医療機関から情報を提供してもらい、保育に取り入れている。 ・進路先とも連携をとっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今まで通り、医療機関や保健センターと連携をとり、保育に活かしていきたい。 ・進路先への丁寧な引継ぎを継続していく。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者を通して行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して、医師の意見書を参考にし、必要に応じて指示を仰ぐようにする。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先には引き継ぎ書を作成している。 ・卒級前に、進路先からすすく学級に来級してもらい、情報提供している。 ・卒級後は進路先へ出向き、子どもたちの様子を見て進路先での様子を伺い情報共有している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・進路先との行き来や、引き継ぎ書での情報提供等、丁寧な引継ぎを続けていく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供			
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センターとの連携はとっている。 ・専門機関での研修は受講している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関との連携は引き続き続けていきたい。 ・専門機関での研修等に参加して研鑽していきたい。
	7	児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放やオープンスクールの情報をすすく学級からも提供し、交流していた子どももいる。 ・こども園とのプール交流を企画していたが、猛暑のため中止になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はい」2人 ・「どちらともいえない」1人 ・「いいえ」6人 ・「わからない」2人 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の幼稚園や保育所、こども園のイベントの案内はしているが、定期的な交流はまだ実施できていないため、感染対策に配慮しながら取り組んでいきたい。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の出入りはしていない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報等に配慮して、地域住民との交流は行っていない。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	・入級時に重要事項説明書などを渡して説明し、保護者のサインをもらっている。入級後も個々に応じた説明を行っている。	・全員が「はい」と回答	・引き続き丁寧な説明を行うようにする。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	・個別に時間をとり、説明している。 ・子どもの発達を促すための支援の仕方を共通理解するようにしている。 ・保護者から同意のサインをもらっている。	・「はい」10人 「わからない」1人	・子どもの成長発達を促す支援の方法など、個別対応で説明を継続していく。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	・親子通園施設なので、日々の関りの中で見たり聞いたりして学んでもらうようにしている。 ・発達相談員による親教室や個別相談、精神科医との個別相談、小児科医との健康相談の機会がある。	・「はい」9人 「いいえ」2人	・ペアレントトレーニングの意味や意義を丁寧に伝えるようにする。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	・発達の状況や課題については、日頃から共通理解を行っている。	・「はい」10人 「いいえ」1人	・一人一人の子どもの課題や支援について、保護者に丁寧に伝えて共通理解が出来るように努める。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	・個別に時間を設けて対応している。 ・細やかに保護者に声を掛け、話を聞くように心がけている。また、保育士で足りない部分は、精神科医や発達相談員にアドバイスをもらい対応している。	・全員が「はい」と回答	・今まで通り、個別に対応していきたい。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	・保護者会は設けていないが、親教室を月2～3回程度開催し、保護者同士の意見交換等の交流の場を設けている。	・「はい」6人 「どちらともいえない」1人 「いいえ」2人 「わからない」2人	・親教室は継続する。 ・保護者が話をしたい時は、保護者同士の繋がりがもてるような対応を行い、時間を確保していく。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	・状況や課題の共通理解は毎日行っている。	・「はい」5人 「わからない」6人	・誤解が生じることがないように、迅速な対応を継続していく。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	・情報を正しく伝えるようにし、前向きにとらえることが出来るように伝え方も意識している。	・「はい」10人 「どちらともいえない」1人	・一人一人の子どものもつ特性や障害を正しく理解し、職員全体で適切な助言、意思疎通が出来るように努める。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	・毎月発行しているおたよりや、掲示物で保育の予定や行事等を知らせたりして保護者が予定を周知できるようにすると共に、口頭でも伝えるようにしている。 ・必要な時はミマモルメも活用し、連絡発信している。	・「はい」8人 「いいえ」1人 「わからない」2人	・毎月20日にはおたよりで翌月の予定を知らせ、週案や行事の持ち物等を必要に応じて掲示して周知徹底する。 ・必要に応じてミマモルメも活用していく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	・個人情報鍵のかかるロッカーに保管し、持ち出しの名簿はマークで記載している。 ・見学や午後の訓練、日中一時の時は、ロッカーの名前を隠して対応している。 ・児童発達支援計画等は、不透明なファイルに入れて保護者に手渡している。	・「はい」10人 「どちらともいえない」1人	・厳重に対応していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルは保護者に配布していないが、見直しを随時行い、保護者にも訓練時を利用して毎回説明を実施している。 ・感染症対応については、体調不良時の出席停止期間の目安一覧をおたよりで配布した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が「はい」と回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き周知徹底すると共に、必要に応じてマニュアルを掲示したり配布したりする。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な場面を想定し、年に5回程度実施している。 ・訓練の前には保護者とシミュレーションを行い、その日の目標を明確に伝えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が「はい」と回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に実施していく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭児童相談員や保健師と連携したり、研修会に参加したりしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今まで通り、他機関との連携を大事にしてい
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、理解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	<ul style="list-style-type: none"> ・自傷行為や危険行為に対しては、動きを止めることはある。保護者とも共有している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同伴で通級しているため必要なし。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、医師の指示書に基づき対応している。 ・食後はすぐに手を洗うようにし、アレルゲンが部屋や他児に付かないように配慮している。 ・アレルギー表を作成し、常時確認できる場所に掲示するようにした。 		<ul style="list-style-type: none"> ・医師の指示書に基づき、アレルギー児には個別の布巾を用意したり、座席の配置を配慮したりすることを継続していく。 ・子どもの状況に応じて、食後の手洗いや片付け場所について危険のないように随時見直すことも必要。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの用紙にその都度記載し、職員間で伝達、共有している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・その都度報告し合い、記録し、改善に努めることを継続していく。